

ヒグマ活動期運用結果について（詳細）

1. 実施概要

- 利用適正化計画の改定にもとづき、増枠と小ループの追加を行った。
- 小ループは6月から運用を開始した。枠数、計画上の日最大利用者数は下表の通り。
- 当日受付カウンター機能を強化し、小ループ受付等に対応した。

	H26		H25	H24
	5月	6~7月		
小ループ (当日受付)	なし	4枠		
大ループ (事前予約)	35枠	32枠	31枠	25枠
日最大利用者数	350人	360人	310人	250人

2. 実施結果

1) 利用状況の変化

期間を通じたツアーの催行回数は1,559回とH25年度の1,372回から14%増加。H24年度比では41%増加した。参加人数ベースにおいても、10,190人とH25年度の8,946人から14%増加しており、利用適正化計画の変更が利用機会の拡大に一定の効果があった。時間ごとの催行状況の分布はH25から大きな変化はないが、6月以降運用された小ループ枠(10:00、12:00、14:00、16:00)の増加と、昼の時間帯(10:00~13:00)の増加が見られる(図1)。

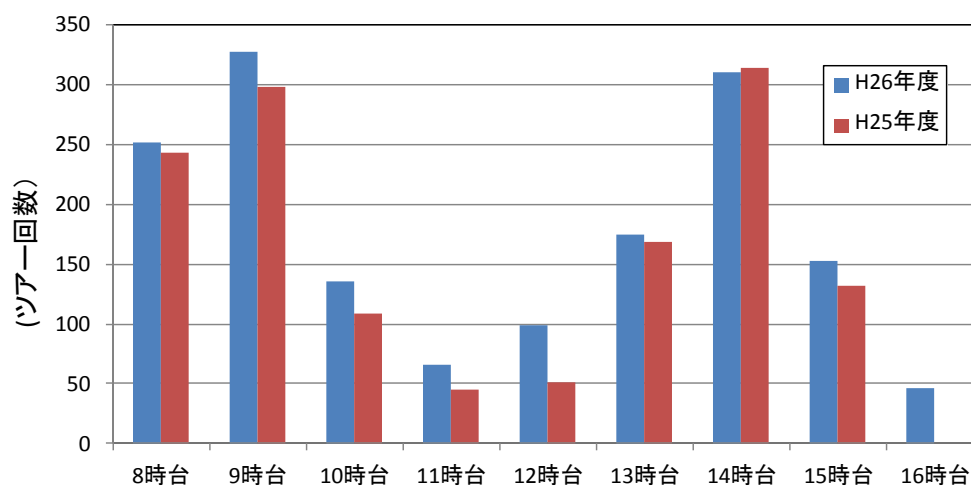


図1. ツアー枠毎の実施回数の年度比較

2) ツアー枠の活用状況

計画上の催行可能ツアー回数は全期を通じて2,966回であり、実際のツアー催行回数に対する割合（催行率）は53%と昨年度から変化していない。期間別に検討すると、5月の催行率は3割以下、6月で5割程度であった一方、7月は7割を超え、人気の時間帯(8:40, 9:00)では催行率が100%に達する時間帯もあった（図2）。

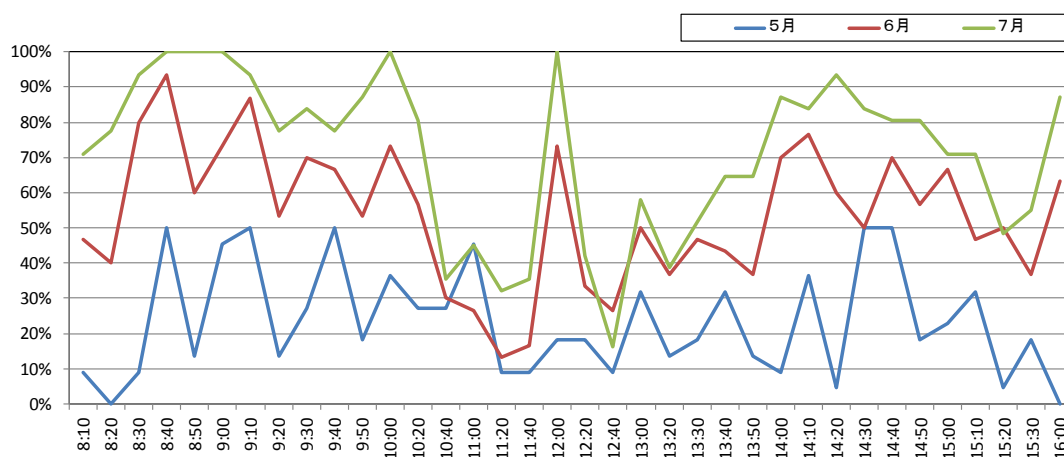


図2 時間帯毎におけるツアー催行率の月別比較

3) 当日受付カウンターでの運用

制度を知らずに来訪し、ツアー参加を希望する利用者は依然として多い。これに対応するため、知床ガイド協議会と知床財団が協力し、当日受付のカウンターを運営した。

当日受付カウンター経由でツアーに参加した利用者は2,756人であり、ヒグマ活動期中の総利用者の27%であった。特に昼の時間帯については顕著に当日受付の割合が高い。（図3）。

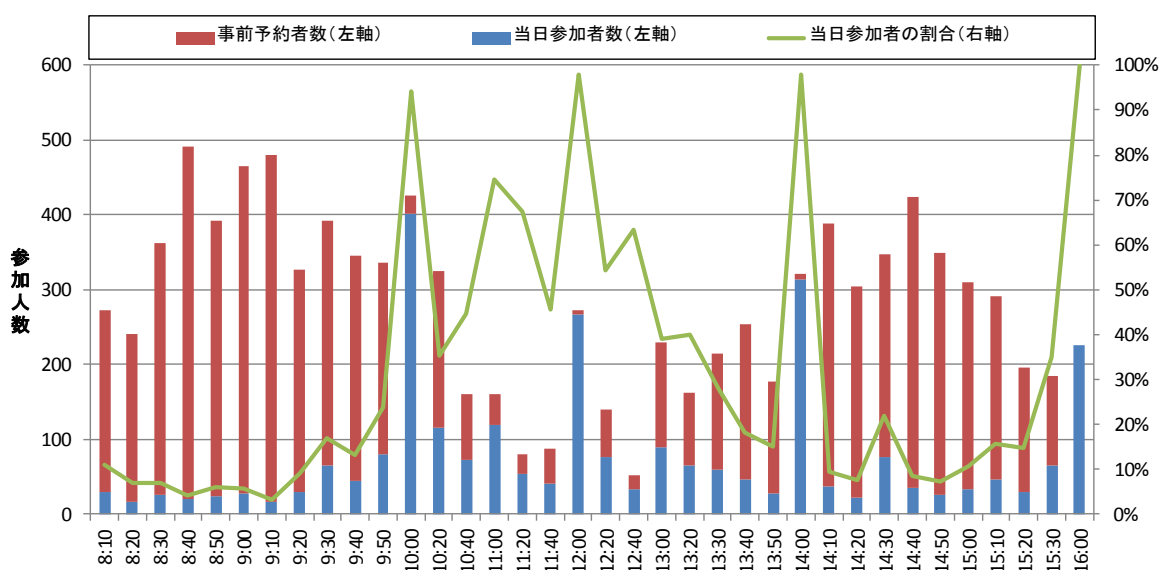


図3 時間帯毎の当日受付と事前予約の利用者数

4) 小ループの運用状況

小ループツアーは、知床ガイド協議会の有志により運営された。ツアー料金は 2500 円とし、担当引率者間で報酬の格差を緩衝する仕組みを設けた。小ループのツアー参加者数は 1,196 人で、全利用者数の 12%であった。主な利用者は、制度を知らない散策希望者、時間が無い方、体力に不安のある親子連れ等のグループなどである。

5) ヒグマ遭遇時等危急時の対応

本年度のツアー中のヒグマ遭遇回数は 15 回で昨年（13 回）とほぼ同水準である。ツアーの中止は 3 回で遭遇してもツアーを中止としない判断が大半を占めた。ヒグマ遭遇時の対応や中止時の退出等において、増枠や小ループ追加による課題・影響は特に報告されていない。特筆すべき遭遇事例として、7 月 13 日に連続して 5 回ヒグマ遭遇が継続するケースがあった。

また、ツアー中に軽度の傷病者が発生し、傷病者を離脱させ、ツアーを継続した事例が 3 件あった。

6) フィールドハウスにおける手続き、無線交信、案内業務等の状況

利用者数が増え続けていることからスタッフを 3 名増員し最大 6 名にて運用にあたった。1 名が無線交信・ブリーフィングを担い、受付手続き、総合案内・当日受付・電話応対等を 5 名で並行して実施した。小ループについては、無線作業や受付手続きは大ループと同様であり支障はほぼ無かった。

3. まとめと課題

1) ツアー枠の取得

ツアー枠の増加により、参加者数は増加したが、人気の時間帯においては、ツアー枠の取得が難しい時間帯もあった。また、団体ツアーの利用が 2 割程度あり、早い段階から予約取得が行われる一方、個人の予約は直前になる傾向がある。引率者が各々予約枠を取得している現行制度においては、空きがあるにも関わらず参加できない状況が発生する。

2) 事前予約の原則と当日受付

当日受付の割合が増加しており、ツアーの申し込み受付の窓口となりつつある。FH の事務作業量は増加。事前予約を推進するための仕組みに課題。

3) 引率者とツアー参加者とのマッチング

外国人利用者が 1 割強を占め、団体利用者を加えると 3 割程度となった。多様な利用者が同一のツアーに相乗りする状況で、ツアーの質や安全性をどのように確保するかが課題。